

魚をとる・売る・食べる文化の歴史を紹介

ミニ電子展示「**天下タイ平**～魚と人の江戸時代～」公開

お手元のスマートフォン等からどなたでもご覧いただけます

国立国会図書館は令和4年1月6日に、ミニ電子展示「本の万華鏡」第30回「天下タイ平～魚と人の江戸時代～」を公開しました。「とる」「売る」「食べる」という3つのキーワードから江戸時代の魚と人の関わり合いをご紹介します オンライン展示 です。

サイトでは日本各地の漁業の様子や活気ある魚市場の風景、鮨や鰻の蒲焼といった魚を使った和食をはじめ、日本の魚文化を浮世絵や名所図会などの当館所蔵資料を中心に紹介しています。また江戸時代の魚図鑑を用いた魚介類の難読漢字クイズもお楽しみいただけます。



URL: <https://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/30/>

■ 報道機関の方のお問い合わせ先

国立国会図書館 総務部 総務課 広報係 03-3506-5103 (直通)

■ご覧いただける資料の一部（サイト上でより詳細な画像をご覧いただけます。）

潮干狩りに興じる江戸の女性



江戸時代、東京湾の干潟では現在の4月から5月の大潮の時期に潮干狩りが行われ、老若男女が行楽を兼ねて繰り出しました。アサリやハマグリ、ヒラメなどが獲れたようです。

出典：重宣「江戸名所」『錦絵』，山甚，嘉永5【寄別2-5-1-2】

江戸最大の魚市場・日本橋の賑わい



人口増加による食料の需要の高まりとともに、江戸では日本橋、大坂では雑喉場（ざこば）に大規模な魚市場が誕生しました。

出典：松濤軒斎藤長秋『江戸名所図会』第1巻，須原屋茂兵衛ほか，天保5-7 [1834-1836]【839-57】

大坂名物、箱鮓



江戸で次第に握り鮓が主流になる一方、京都や大坂では箱鮓が食べられていました。

出典：長谷川貞信「浪華自慢名物尽 福本すし」，綿喜【寄別2-8-1-2】

魚介類難読漢字クイズ

この漢字は何と読むでしょうか？

ヒントは右画像です。

鮫鯨



江戸時代の魚図鑑に描かれた精緻で時にユーモラスな魚たちの絵にも注目です。

出典：『梅園魚品図正』巻2，写，天保6（1835）序【寄別4-2-2-2】



本の万華鏡

URL: <https://www.ndl.go.jp/kaleido/>

「化粧」「百貨店」「恋文」「和菓子」「温泉」など、30のテーマで、国立国会図書館の蔵書を紹介しています。

■ 報道機関の方のお問い合わせ先

国立国会図書館 総務部 総務課 広報係 03-3506-5103（直通）